

# 最近の消費・輸入動向等について

## 《 目 次 》

1. 家計における購入、支出動向等	
(1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入	P. 1～3
(2) 生鮮野菜の1人当たり年間購入	P. 4～5
(3) 外食の支出	P. 6
(4) 野菜の摂取量	P. 7
2. 小売の販売動向	
(1) チェーンストア	P. 8
(2) スーパーマーケット	P. 9
(3) 品目別小売価格	P. 10
3. 外食の市場動向	P. 11
4. 輸入の動向	P. 12～13
5. 平成26年産夏秋野菜主要品目の主産県別生産・出荷等	P. 14
6. 今後の気象予報	P. 15～16

## 1. 家計における購入、支出動向等

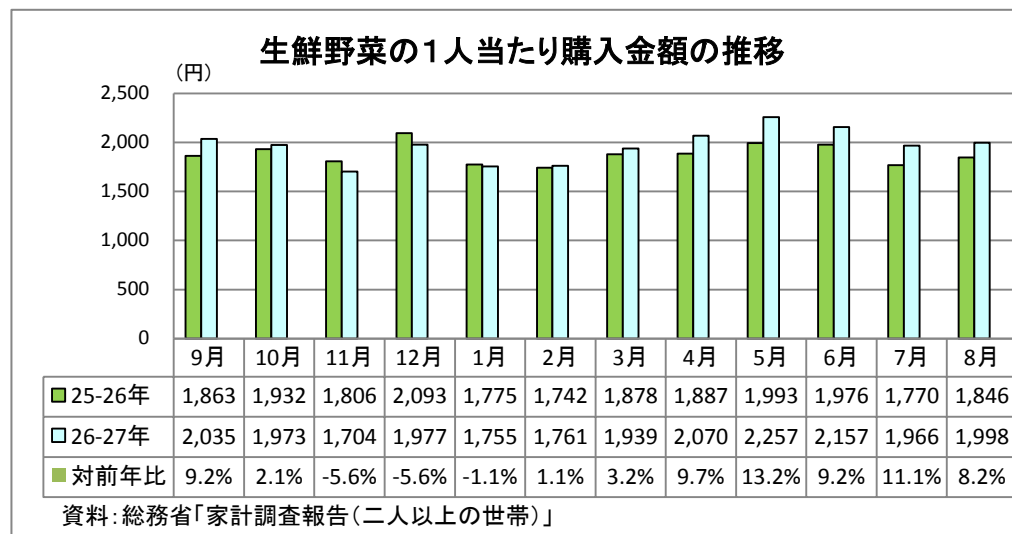
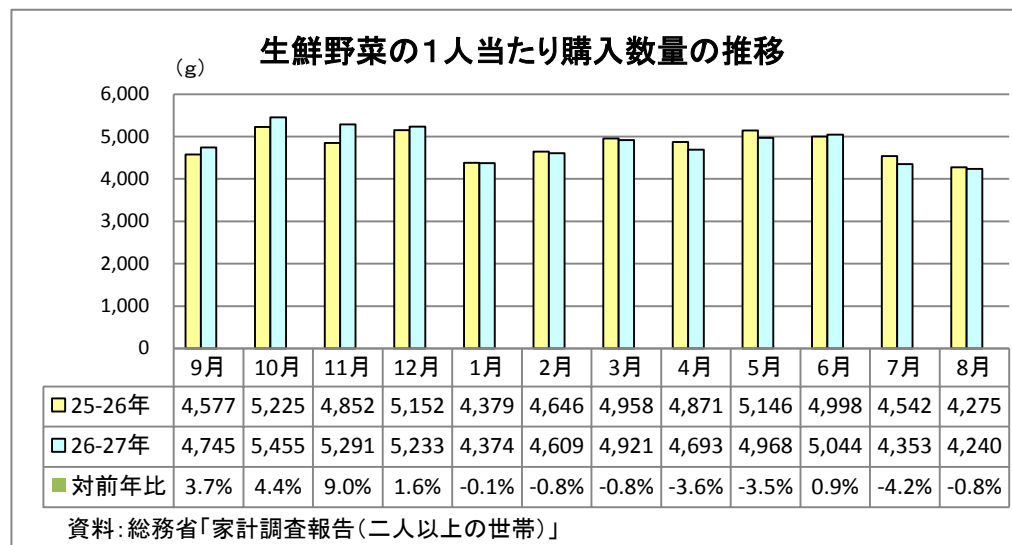
### (1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入

#### <購入数量>

- 生鮮野菜の1人当たりの購入数量は、平成26年9月から12月にかけて前年を上回った。これは、前年が長雨など天候不順の影響による、生育不良から入荷量が減少し購入数量が減少したためである。
- 1月以降、1月から3月及び6月、8月は、6月を除いて前年を下回るも、ほぼ前年並みで推移した。
- 4月及び5月は、天候不順等の影響で、キャベツ等の出荷量の減少により前年を下回った。
- 7月は、だいこんなど一部品目が干ばつ等の影響で入荷量の減少により前年を下回った。

#### <購入金額>

- 生鮮野菜の1人当たりの購入金額は、9月及び10月は、病害の発生や降雨の影響などから、キャベツなどの価格高騰により前年を上回った。
- 11月から1月にかけて、好天に恵まれ順調な出荷により野菜価格が下落したことにより前年を下回った。
- 4月から5月にかけて、キャベツなど一部品目で品薄高から前年を上回った。
- 6月は、キャベツなど一部の品目の価格が高値傾向であったことから前年を上回った。
- 7月及び8月は、高温や干ばつの影響で野菜全体が品薄による価格高騰により前年を上回った。



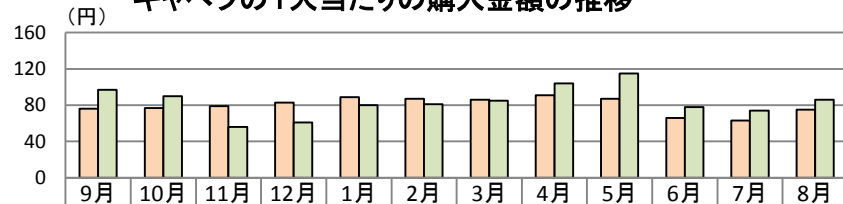
### キャベツの1人当たり購入数量の推移



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
□ 25-26年	525	541	466	422	395	472	556	587	574	504	492	490
■ 26-27年	467	544	492	444	441	510	634	506	510	518	454	454
対前年比	-11.0%	0.6%	5.6%	5.2%	11.6%	8.1%	14.0%	-13.8%	-11.1%	2.8%	-7.7%	-7.3%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

### キャベツの1人当たりの購入金額の推移



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
□ 25-26年	76	77	79	83	89	87	86	91	87	66	63	75
■ 26-27年	97	90	56	61	80	81	85	104	115	78	74	86
対前年比	27.6%	16.9%	-29.1%	-26.5%	-10.1%	-6.9%	-1.2%	14.3%	32.2%	18.2%	17.5%	14.7%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

### だいこんの1人当たり購入数量の推移



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
□ 25-26年	346	503	530	529	409	420	394	348	318	281	267	242
■ 26-27年	414	564	554	477	361	407	384	295	290	281	224	240
対前年比	19.7%	12.1%	4.5%	-9.8%	-11.7%	-3.1%	-2.5%	-15.2%	-8.8%	0.0%	-16.1%	-0.8%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

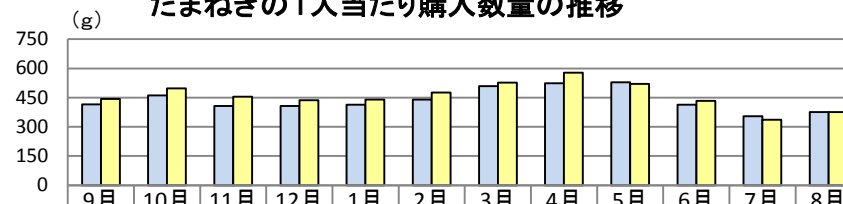
### だいこんの1人当たり購入金額の推移



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
□ 25-26年	61	78	73	68	54	52	48	42	43	34	33	39
■ 26-27年	72	74	55	50	46	50	48	47	50	38	38	45
対前年比	18.0%	-5.1%	-24.7%	-26.5%	-14.8%	-3.8%	0.0%	11.9%	16.3%	11.8%	15.2%	15.4%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

### たまねぎの1人当たり購入数量の推移



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
□ 25-26年	416	461	407	408	414	440	509	524	529	413	354	376
■ 26-27年	444	498	455	436	440	476	527	578	520	433	337	376
対前年比	6.7%	8.0%	11.8%	6.9%	6.3%	8.2%	3.5%	10.3%	-1.7%	4.8%	-4.8%	0.0%

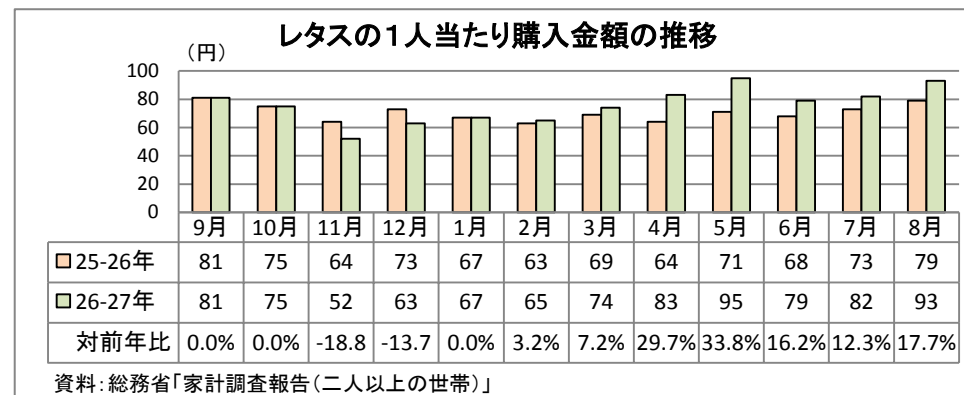
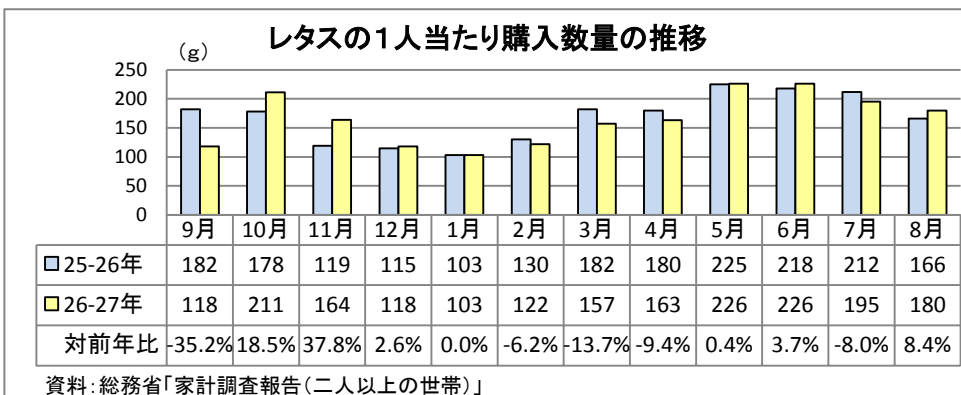
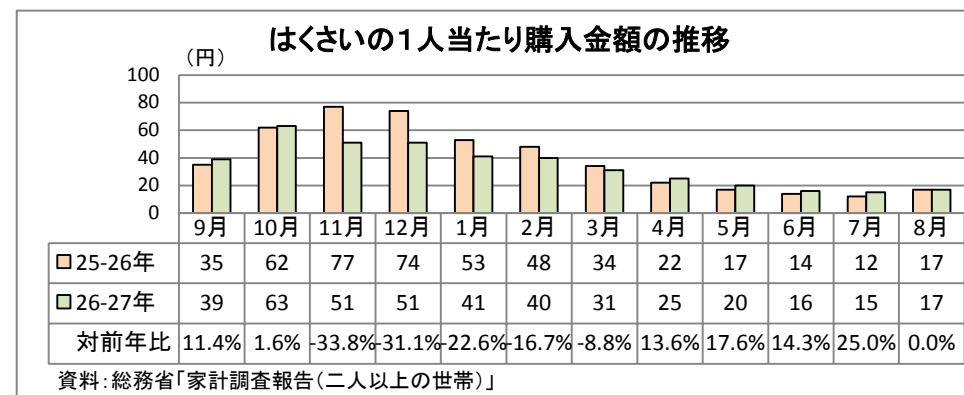
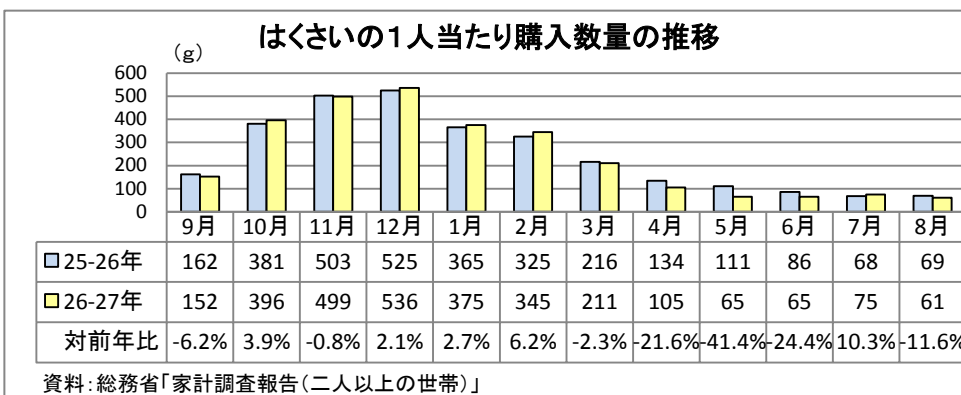
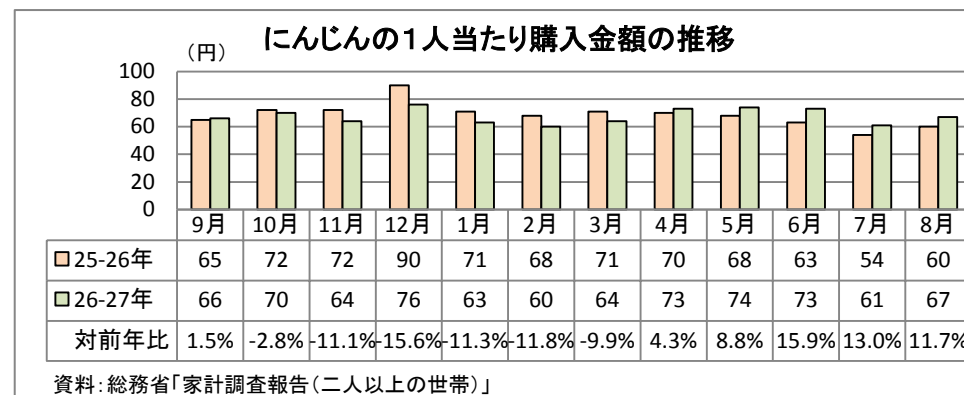
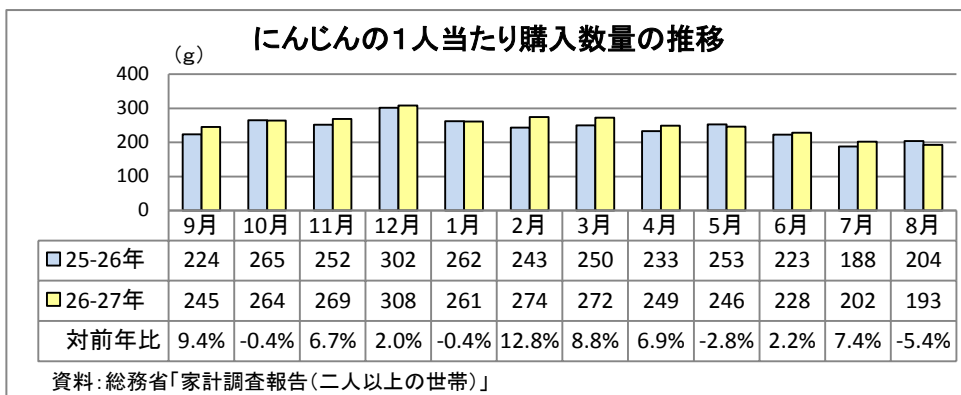
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

### たまねぎの1人当たり購入金額の推移



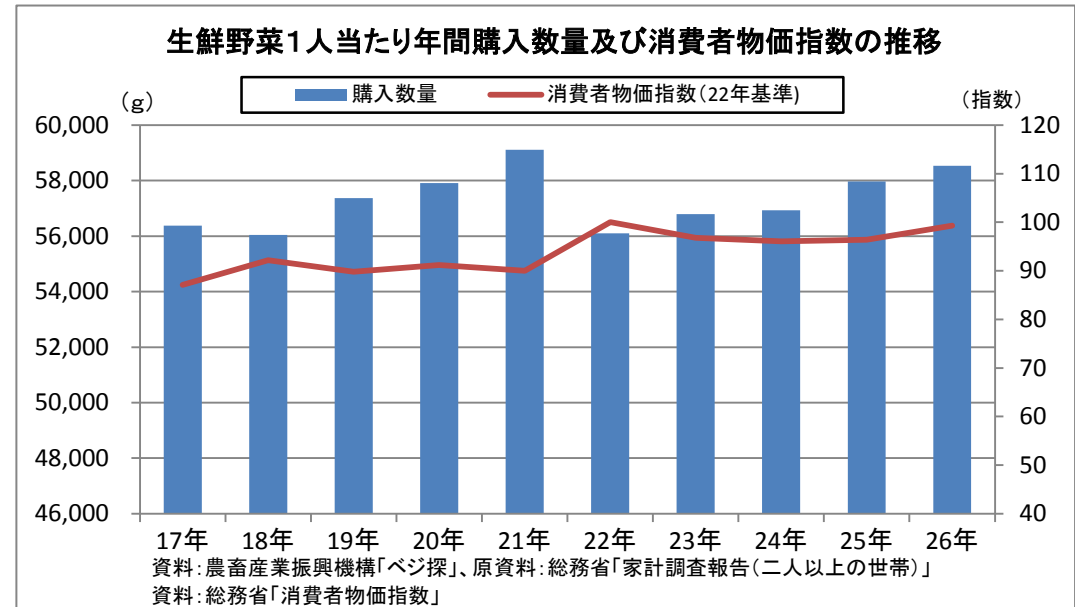
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
□ 25-26年	80	88	82	88	95	101	121	124	111	86	73	84
■ 26-27年	94	92	79	81	86	92	112	124	116	95	87	99
対前年比	17.5%	4.5%	-3.7%	-8.0%	-9.5%	-8.9%	-7.4%	0.0%	4.5%	10.5%	19.2%	17.9%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

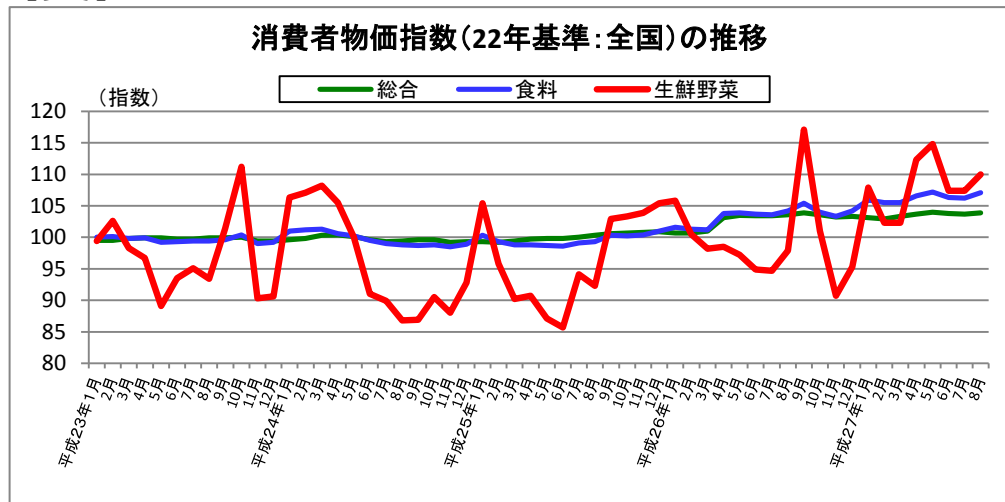


## (2) 生鮮野菜の1人当たり年間購入

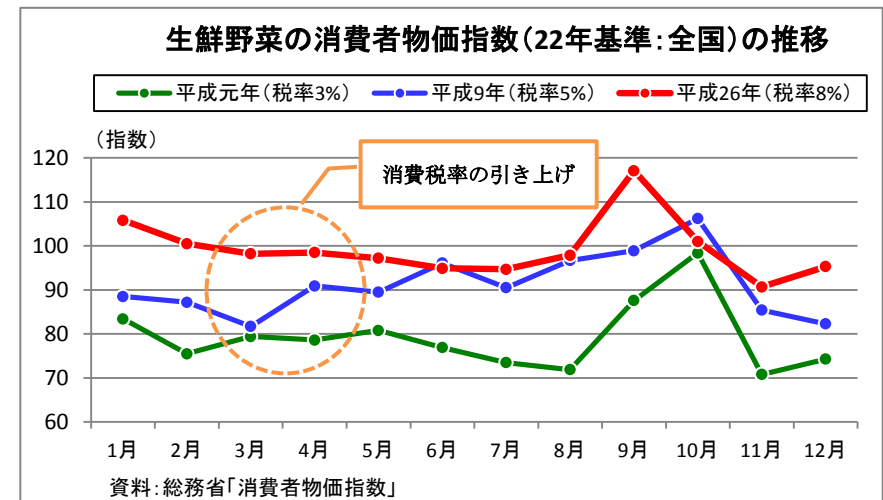
- 生鮮野菜の1人当たり年間購入数量は年によって変動するものの、消費者物価指数（小売価格）が高くなると、購入数量が減少する傾向が見られた。
- 生鮮野菜1人当たり年間購入数量を品目別にみると、近年、だいこん、たまねぎ及びはくさいは増加傾向、キャベツ、にんじん及びレタスは横ばい傾向がみられた。
- 消費者物価指数については、消費税率が引き上げられた平成26年4月には、総合指数の前月比は2.1%上昇した。生鮮野菜指数は、4月には0.3%上昇した後、減少傾向で推移したが、8月及び9月は野菜価格の高騰により上昇し、10月から12月にかけて大幅に下落した。年末から平成27年1月にかけて上昇し、3月にかけて下落したものの、野菜価格の高騰により5月にかけて12.5%上昇し、その後、下落したが、8月には再び価格高騰により2.4%上昇した。

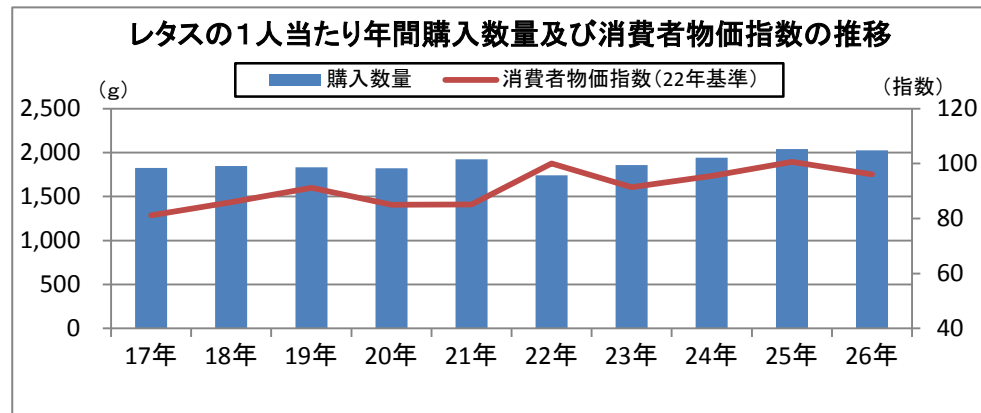
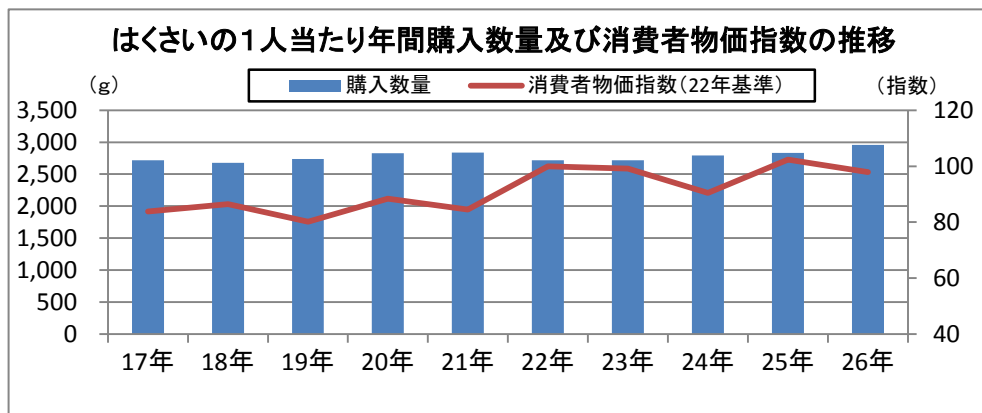
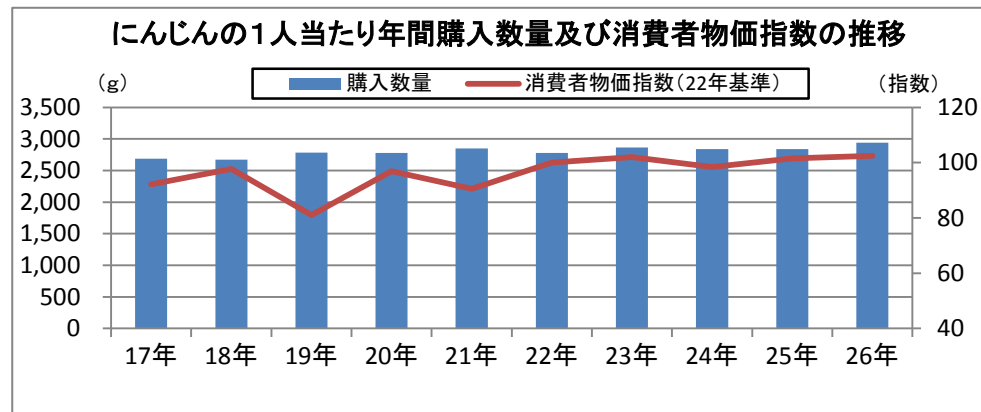
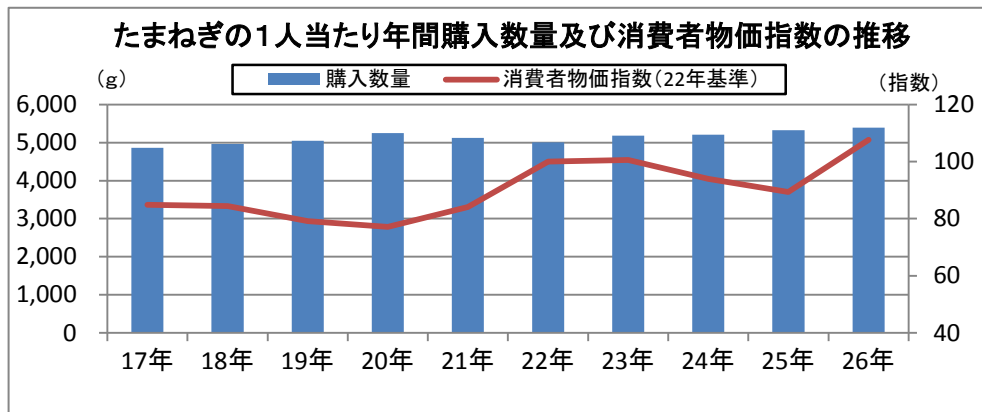
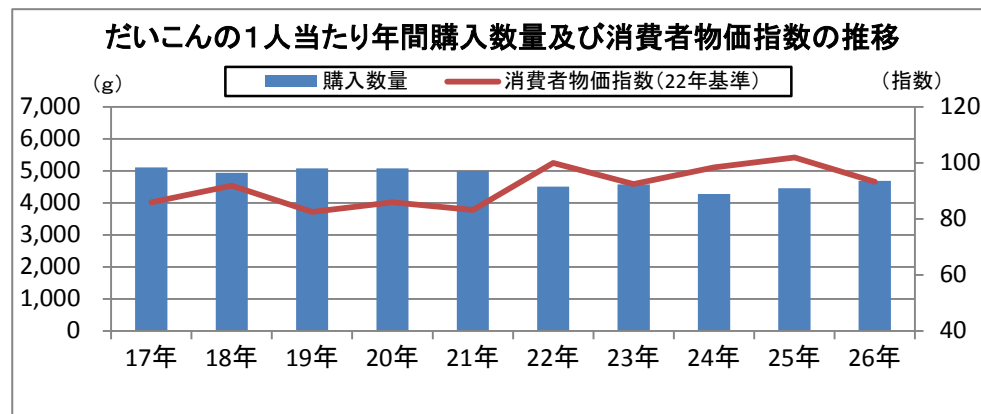
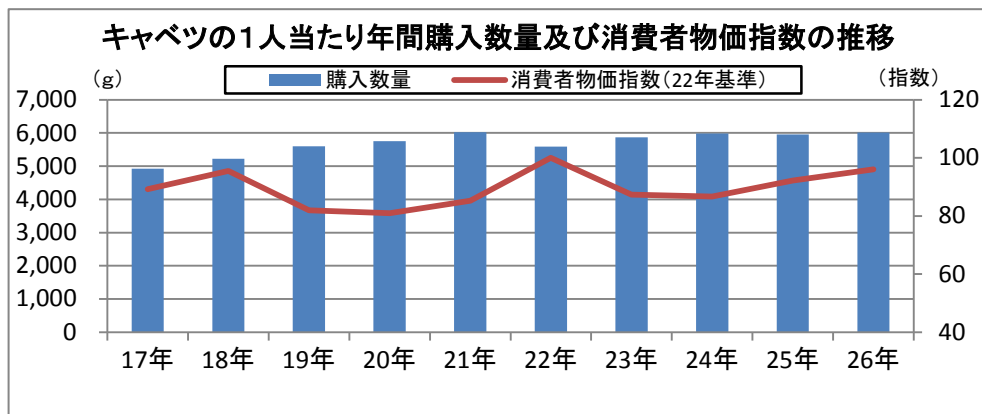


### 【参考】



資料：総務省「消費者物価指数」

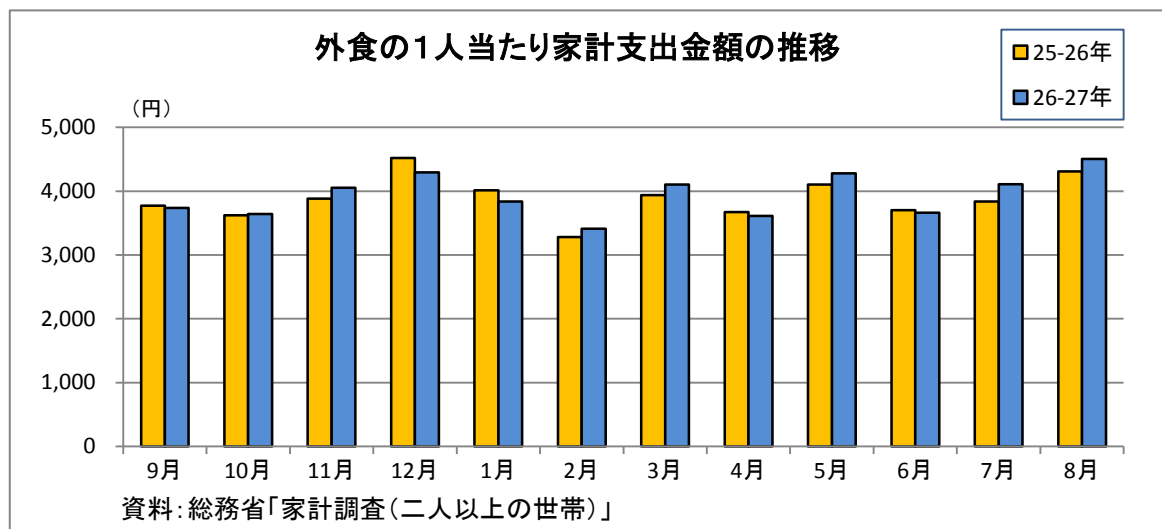




資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：総務省「家計調査報告（二人以上の世帯）」資料：総務省「消費者物価指数」

### (3) 外食の支出

- 平成26～27年の外食の家計支出金額は、12月から1月にかけて寒い日が続くなど、外食機会が減ったことから前年同月を下回った。
- 2月及び3月は、記録的な大雪となった昨年と比べ、比較的天候に恵まれ外食機会が増えたことから前年同月を上回った。
- 5月は、休日数が前年より多く、またGW期間中は好天に恵まれ、全国的に気温も高かったことから前年同月を上回った。
- 7月及び8月は、夏休み需要も堅調であり、客単価が上昇したことから前年同月を上回った。



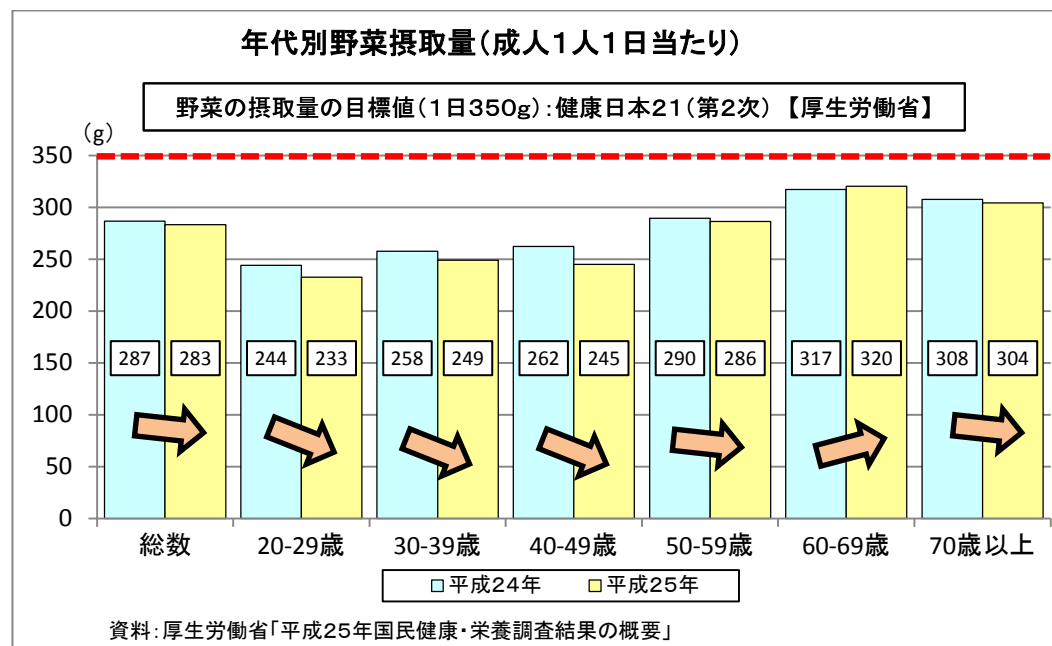
- 平成27年8月の消費支出に占める外食の割合は6.0%となり、前年同月を上回った(102%)。
- 平成27年8月の食料支出に占める外食の割合は20.9%となり、前年同月を上回った(102%)。

家計調査(二人以上の世帯)

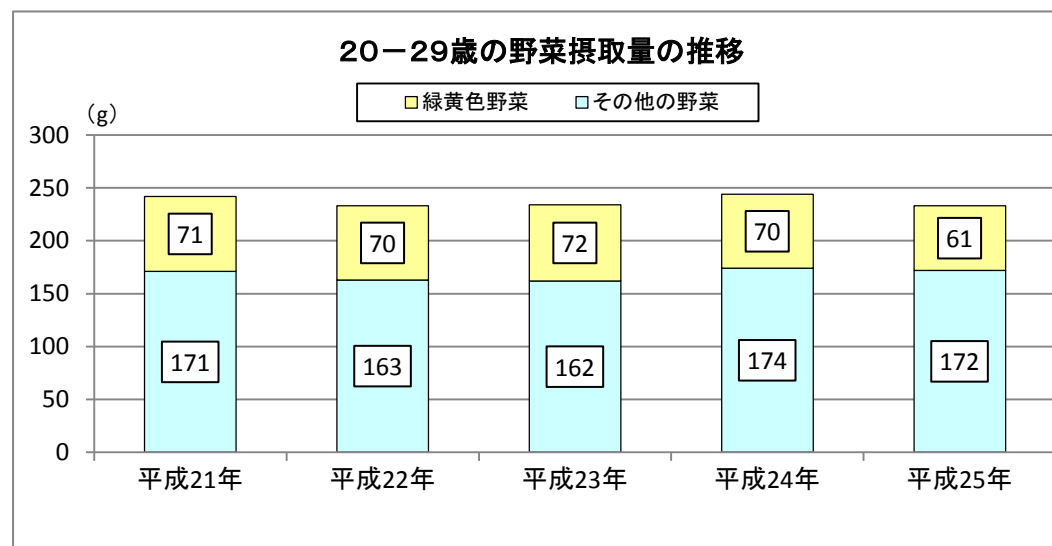
品目分類	26.8支出金額	27.8支出金額	対前年同月比
世帯人員(人) <①>	3.02	3.01	—
消費支出(円) <②>	282,898	292,808	104%
食料(円) <③>	81,242	84,530	104%
外食(円) <④>	16,678	17,642	106%
外食(1人当たり) <⑤=④/①>	5,523	5,861	106%
消費支出に占める割合(%) <⑥=④/②>	5.9	6.0	102%
食料に占める割合(%) <⑦=④/③>	20.5	20.9	102%

#### (4) 野菜の摂取量

- 平成25年の成人1人1日当たりの野菜摂取量は、前年に比べて減少し283グラム（前年比99%）となり、依然として、健康日本21（第2次）で示された、野菜の摂取量の目標値（1日350g）を下回っており、また、各年代別に見ても目標値に達した年代はなかった。また、20代が一番低い水準となっている。
- 60～69歳を除く全ての年代で、前年よりも野菜摂取量が減少しており、その中で、40代の野菜摂取量の減少量が大きい。



- 野菜摂取量が最も少ない20代の、過去5年の摂取量を見ると、ほぼ横ばい傾向で推移している。
- 20代の平成25年の野菜の摂取量を見ると、緑黄色野菜が大きく減少（前年13.0%減）したものの、その他の野菜がわずかな減少（前年1.2%減）にとどまったことから、全体では前年比4.5%の減少となった

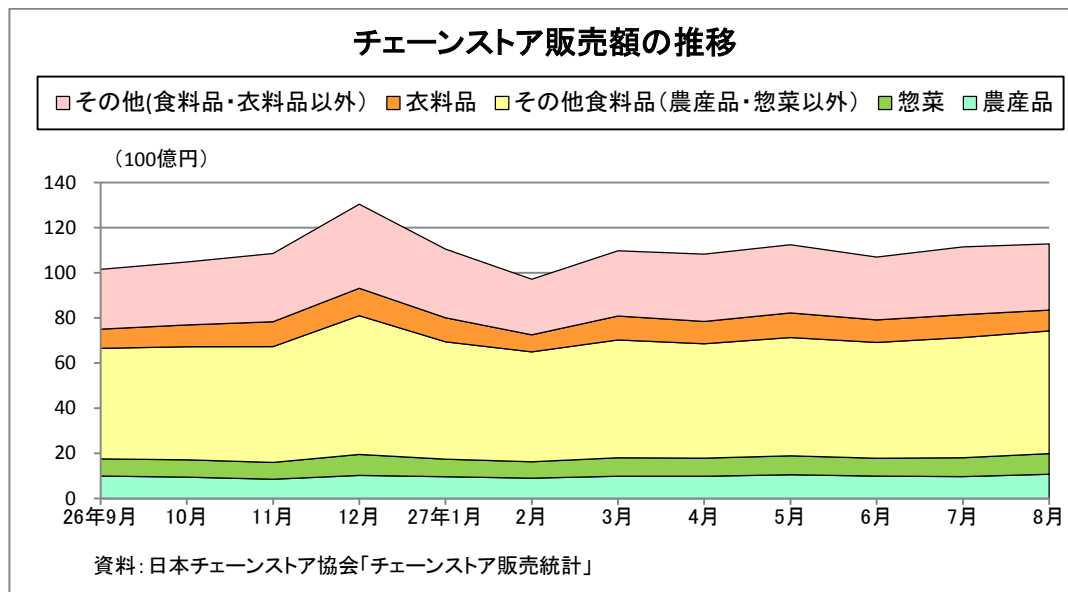




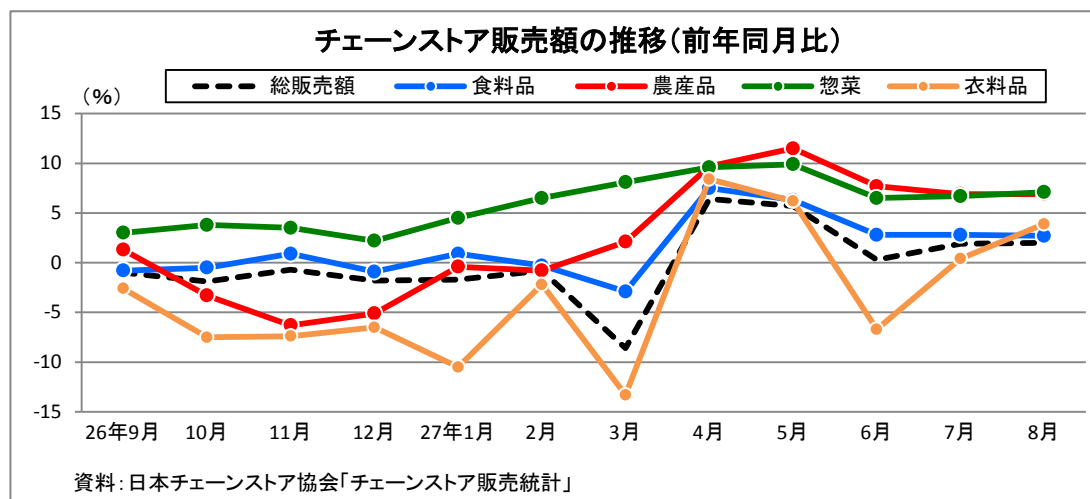
## 2. 小売の販売動向

### (1) チェーンストア

- 総販売額の最高額は12月の1兆3,042億円、最低額は2月の9,718億円であった。
- 農産品の最高額は8月の1,080億円、最低額は11月の859億円であった。
- 惣菜の最高額は12月の929億円、最低額は2月の727億円であった。
- その他の食料品（農産品、惣菜以外）の最高額は12月の6,146億円、最低額は、2月の4,868億円であった。

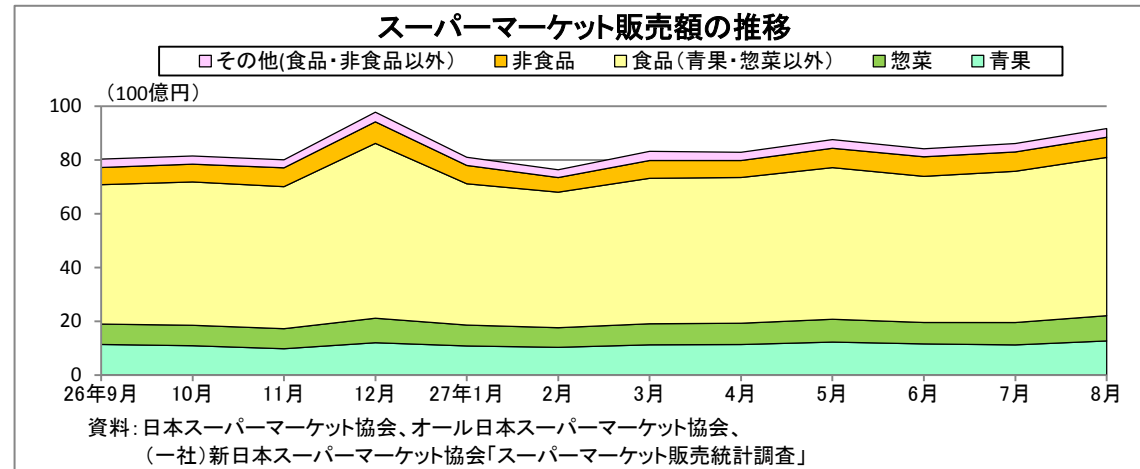


- 総販売額（前年同月比）は、平成27年3月までは前年を下回って推移し、特に、3月は前年の消費税増税の駆け込み需要増から大幅に下回った。4月は増税による買え控えの反動などもあり前年同月を上回り、その後は、食料品を中心に相場高の影響から前年同月を上回った。
- 食料品は、総販売額と同様の動向であった。4月以降、野菜価格の高騰もあり前年同月を上回った。
- 農産品は、4月以降は野菜価格の高騰により前年同月を上回り、6月以降、やや落ち着いているものの、対前年を5%以上、上回って推移した。
- 惣菜は、高齢化や個食化、時短ニーズの高まりで消費者に支持され、また、増税の影響もなく堅調に推移したことから前年同月を上回った。

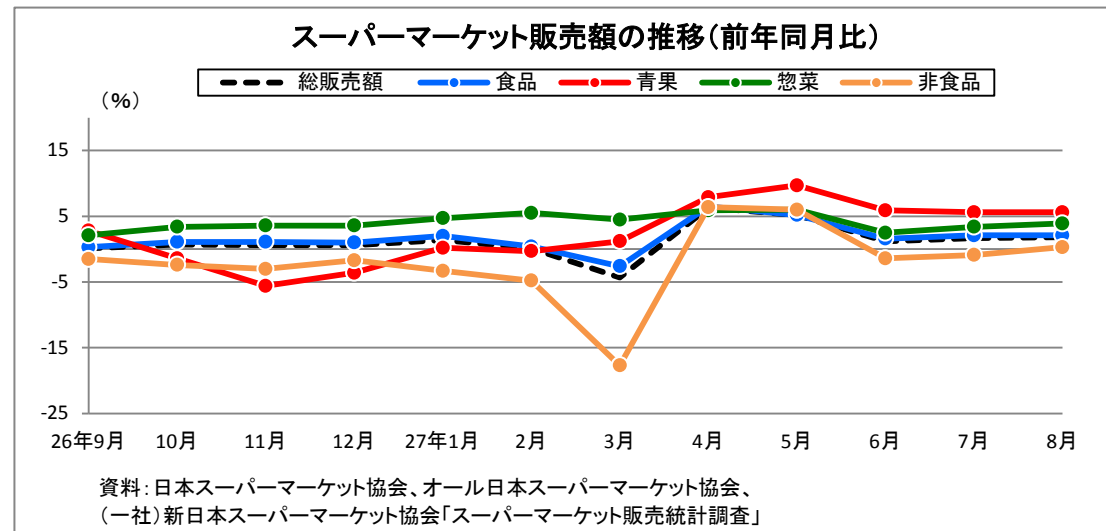


## (2) スーパーマーケット

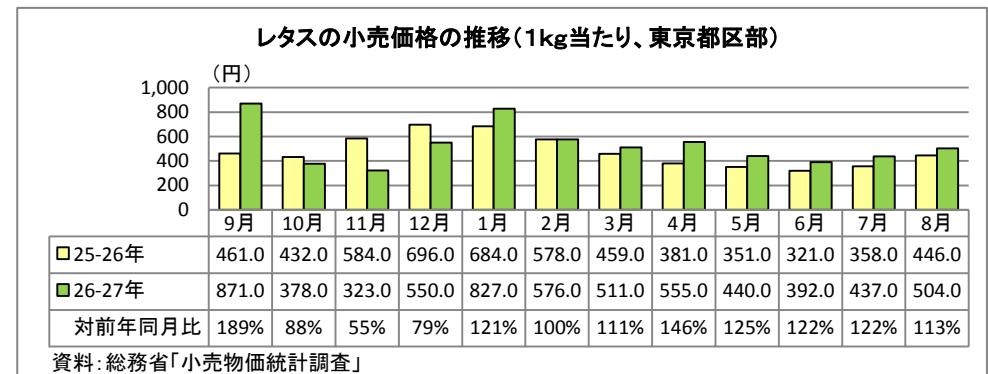
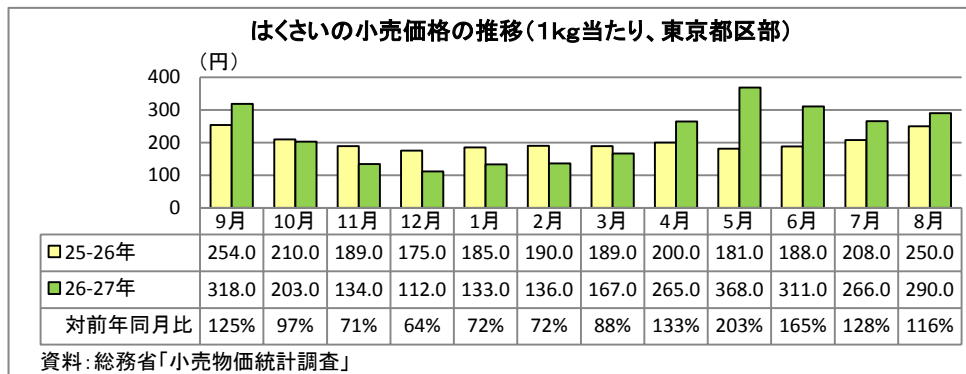
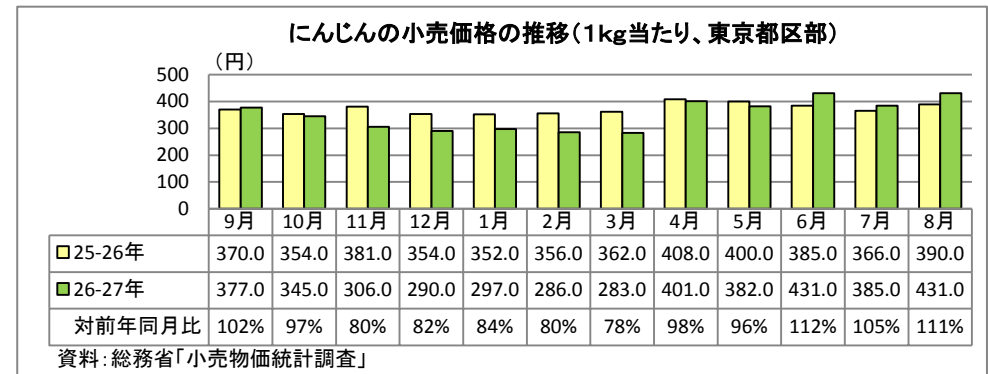
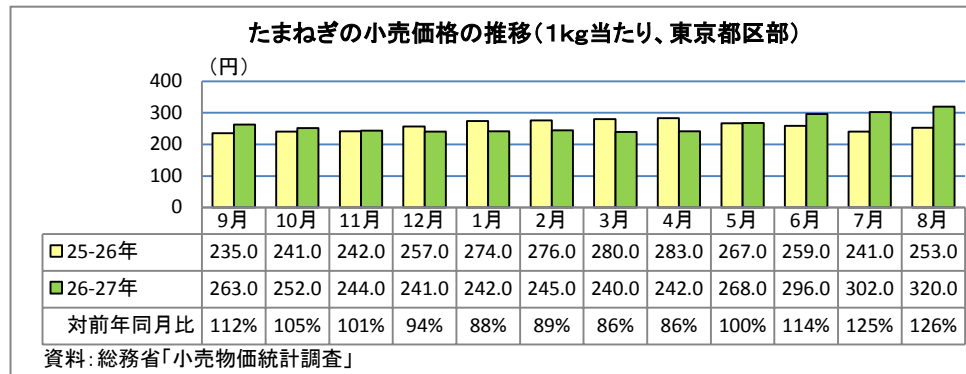
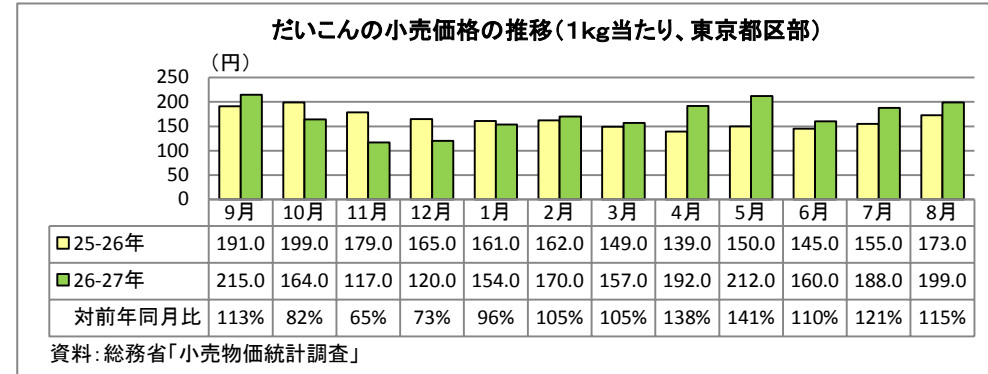
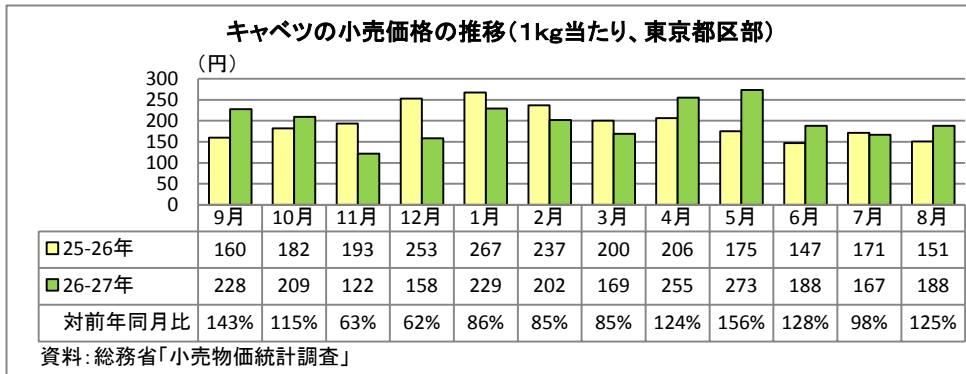
- 総販売額の最高額は12月の9,777億円、最低額は2月の7,635億円であった。
- 青果の最高額は5月の1,227億円、最低額は11月の980億円であった。
- 惣菜の最高額は12月の912億円、最低額は2月の730億円であった。
- 食品(青果、惣菜以外)の最高額は12月の6,501億円、最低額は2月の5,040億円であった。



- 総販売額(前年同月比)は、3月は前年の消費税増税の駆け込み需要から前年同月を下回ったが、その他の月では、前年同月を上回った。
- 食品は、総販売額と同様の動向であった。
- 青果は、特に4月以降は野菜価格の高騰の影響から前年同月を大きく上回り、6月以降、やや落ち着いてきているものの、対前年同月を5%程度上回って推移した。
- 惣菜は、高齢化や個食化、時短ニーズの高まりなどにより支持され、消費税増税や円安などの影響もなく前年同月を上回って推移した。

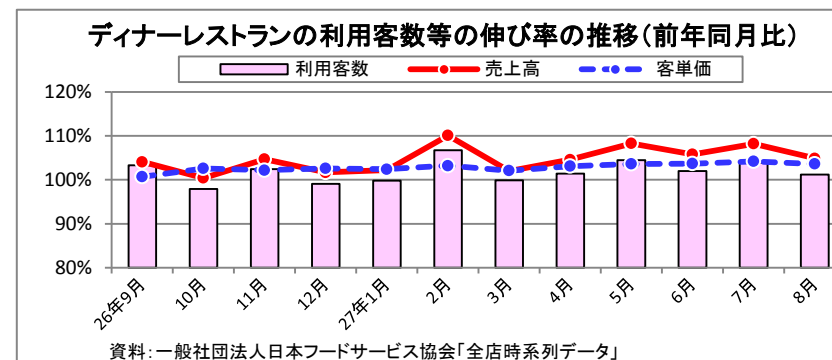
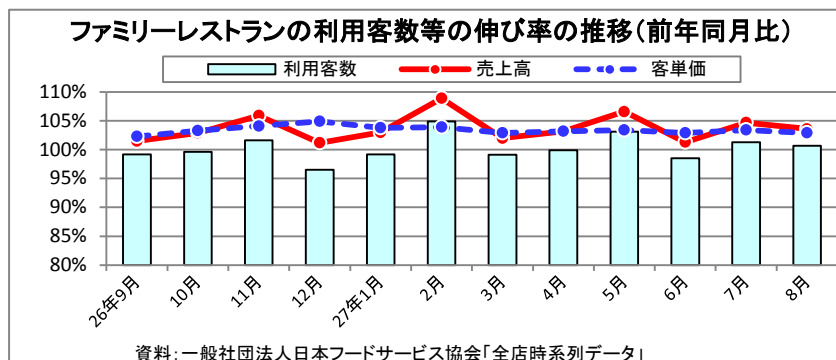
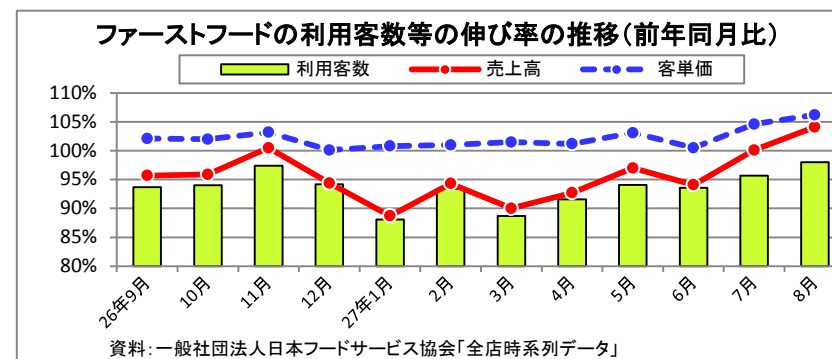
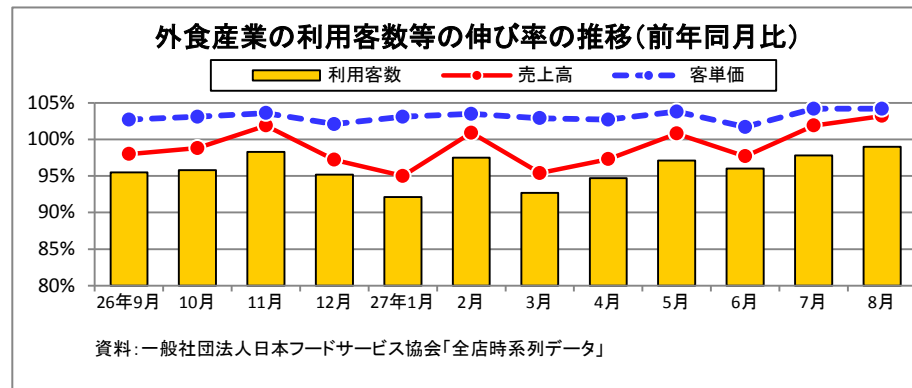


### (3) 品目別小売価格



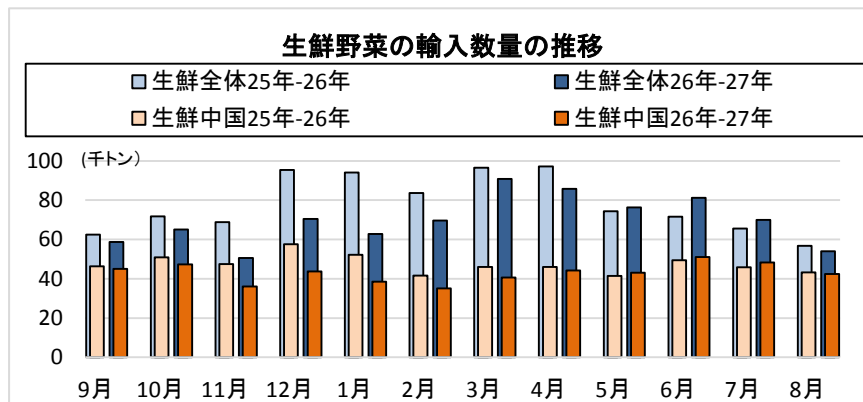
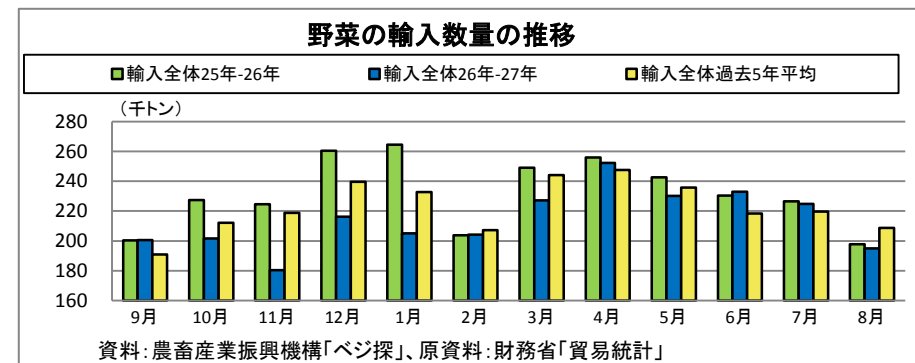
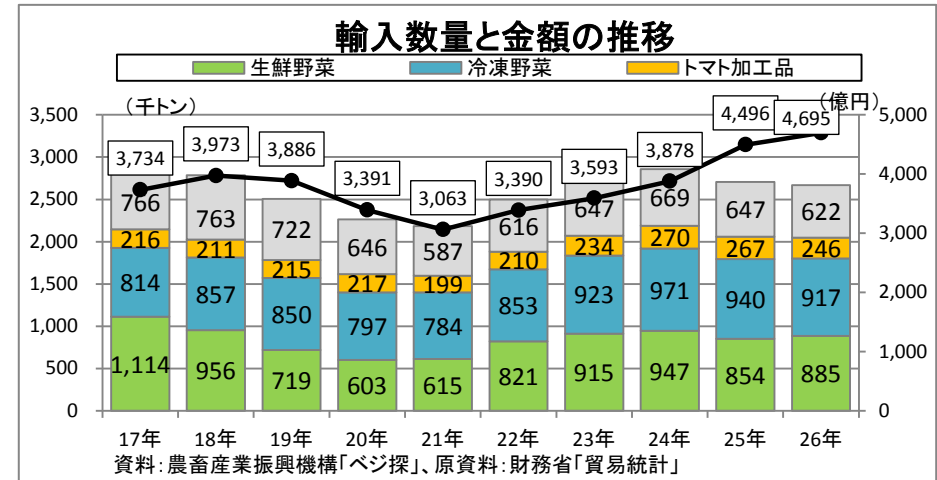
### 3. 外食の市場動向

- 外食店の利用客数は、直近1年間で見ると全ての月で前年同月を下回った。特に1月に発生したファストフード店における異物混入問題の影響から、1月及び3月は、前年同月を大幅に下回った。なお、2月は前年の記録的大雪と比べて、穏やかな日が多かったことから、減少幅は縮小した。
- 売上高は、前年を下回る月が多かったが、2月は天候に恵まれ、1月及び5月は例年に比べ休日が多く、7月及び8月は夏休み需要もあったことから前年同月を上回った。
- 客単価は、高価格帯の商品が支持されたことなどから、25年5月以降、28か月連続で前年同月を上回った。
- 業態別では、ファストフード店は、客単価は前年同月を上回って推移したものの、利用客数は全期間で前年同月を下回った。売上高は、7月以降はファミリー需要が堅調となり、前年同月を上回った。
- ファミリーレストランは、利用客数は11月、2月及び5月を除いて前年同月を下回ったものの、季節フェア等の販促の効果により客単価が増加したことから、売上高は全ての月で前年同月を上回った。
- ディナーレストランの売上高と客単価は、新規出店と高価格帯店の好調が相まって前年同月を上回った。利用客数は、前年同月を上回る月が多かった。

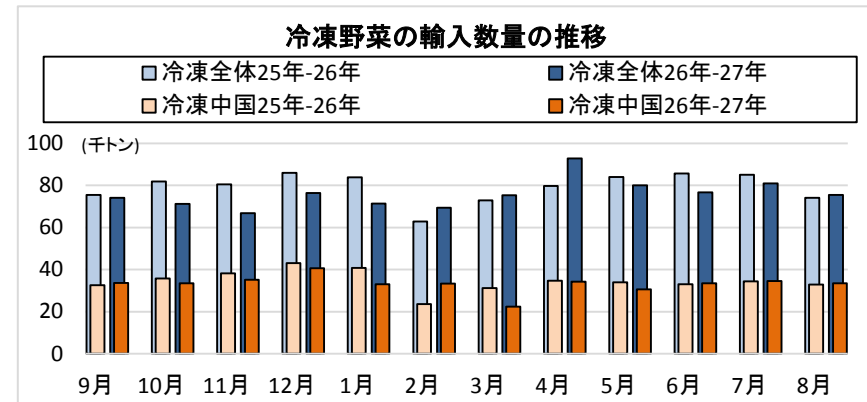


#### 4. 輸入の動向

- 平成26年の野菜全体の輸入数量は、市況変動と円安の影響、中国産たまねぎの残留農薬の基準値超え問題や、米国の港湾ストの影響から267万トンと昨年を下回った。
- 輸入金額は、輸入数量の過半を占める中国産の生産・加工コストの上昇や円安による輸入単価の上昇などから、約4,700億円と過去最高となった。
- 類別では、生鮮野菜及び冷凍野菜の合計が野菜輸入数量の6割以上を占めた。
- 生鮮野菜の輸入数量は、昨年夏の中国産たまねぎの残留農薬問題や、円安などにより輸入物の引き合いが弱まったことから、4月までは前年同月を下回ったものの、その後は、国産の品薄で業務用加工向けを中心に支持され前年同月を上回った。8月は、北海道産のたまねぎが豊作となり、加工業者が輸入物から国産に転換したこともあり、前年を下回った。
- 冷凍野菜の輸入数量は、4月は、生鮮野菜の価格高騰により代替品として冷凍野菜が支持されるなど前年を上回ったが、5月以降は、対前年をやや下回る程度で推移している。

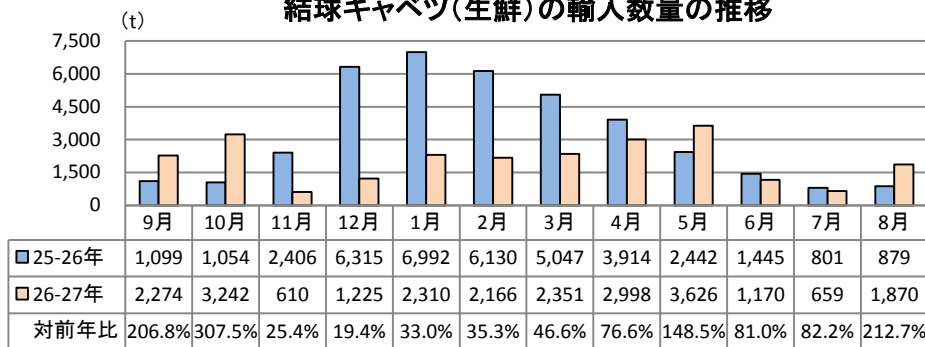


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

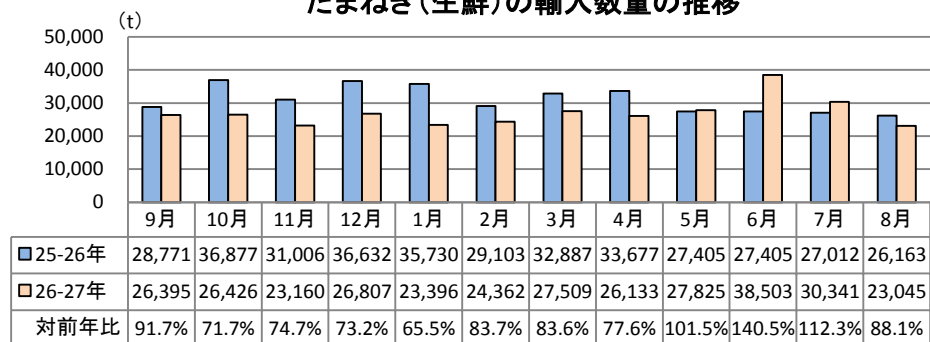


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

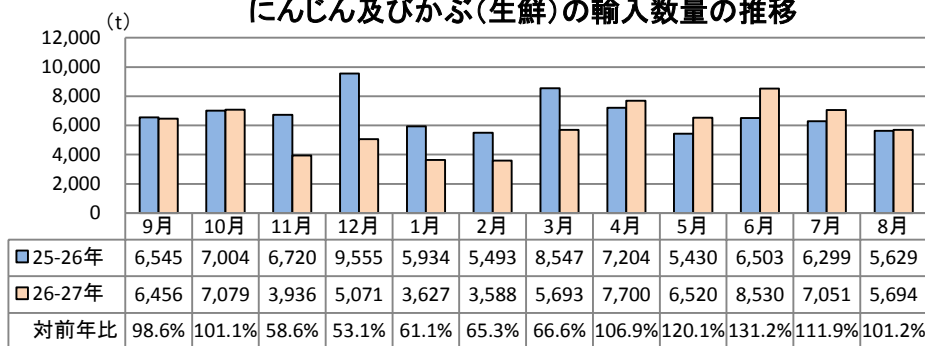
結球キャベツ(生鮮)の輸入数量の推移



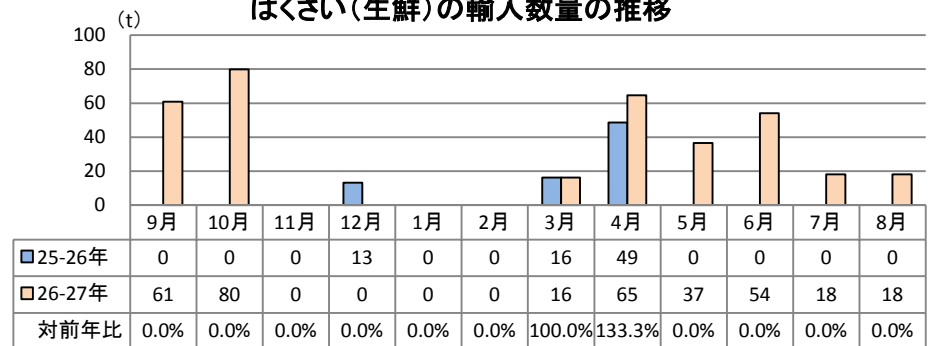
たまねぎ(生鮮)の輸入数量の推移



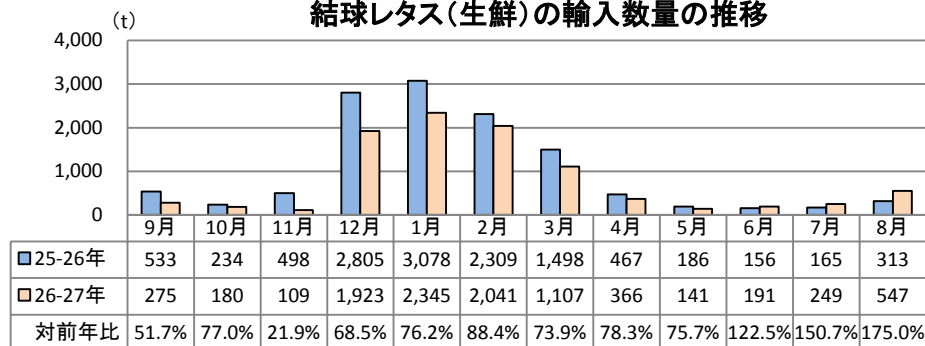
にんじん及びかぶ(生鮮)の輸入数量の推移



はくさい(生鮮)の輸入数量の推移



結球レタス(生鮮)の輸入数量の推移



資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料: 財務省「貿易統計」

5. 平成26年産秋冬野菜主要品目の主産県別生産・出荷等

資料：農林水産省「作物統計(野菜)」  
平成27年8月25日公表

○ 冬キャベツ						
順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	15,300	4,040	618,400	549,000	100.0
1	愛 知	4,310	4,550	196,100	185,600	33.8
2	千 葉	1,550	4,320	67,000	60,400	11.0
3	鹿 児 島	1,440	3,760	54,100	47,900	8.7
4	茨 城	895	4,250	38,000	34,900	6.4
5	神 奈 川	574	4,100	23,500	21,800	4.0
6	熊 本	546	3,610	19,700	17,200	3.1
7	兵 庫	443	4,290	19,000	16,100	2.9
8	福 岡	402	4,190	16,800	15,100	2.8
9	宮 崎	375	4,450	16,700	15,400	2.8
10	静 岡	287	3,650	10,500	8,800	1.6

○ 秋冬だいこん						
順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	22,100	4,400	972,000	738,600	100.0
1	宮 崎	1,900	4,740	90,100	82,000	11.1
2	千 葉	1,670	5,460	91,200	83,300	11.3
3	鹿 児 島	1,670	4,920	82,200	73,300	9.9
4	新 潟	1,430	3,800	54,300	34,800	4.7
5	神 奈 川	1,020	8,210	83,700	79,600	10.8
6	茨 城	988	5,270	52,100	42,000	5.7
7	青 森	930	4,110	38,200	33,000	4.5
8	北 海 道	758	4,400	33,400	29,500	4.0
9	福 島	618	3,660	22,600	7,870	1.1
10	長 野	601	2,780	16,700	5,780	0.8

○ たまねぎ						
順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	25,300	4,620	1,169,000	1,027,000	100.0
1	北 海 道	13,700	5,050	691,900	642,000	62.5
2	佐 賀	2,840	5,180	147,100	130,700	12.7
3	兵 庫	1,720	5,620	96,700	82,400	8.0
4	長 崎	753	3,920	29,500	26,600	2.6
5	愛 知	622	4,920	30,600	27,000	2.6
6	熊 本	333	3,590	12,000	10,100	1.0
7	静 岡	308	3,940	12,100	10,900	1.1
8	愛 媛	251	3,200	8,030	5,910	0.6
9	新 潟	250	2,150	5,380	2,690	0.3
10	栃 木	245	4,850	11,900	10,200	1.0

○ 冬にんじん						
順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	8,120	3,200	259,900	224,500	100.0
1	千 葉	2,460	3,620	89,100	82,100	36.6
2	茨 城	653	3,540	23,100	18,800	8.4
3	長 崎	575	3,860	22,200	20,600	9.2
4	鹿 児 島	527	3,460	18,200	14,900	6.6
5	宮 崎	479	3,250	15,600	14,100	6.3
6	愛 知	437	4,420	19,300	18,100	8.1
7	埼 玉	378	3,520	13,300	11,300	5.0
8	熊 本	360	3,210	11,600	9,890	4.4
9	青 森	271	2,680	7,260	6,600	2.9
10	新 潟	145	2,600	3,770	2,800	1.2

○ 秋冬はくさい						
順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	13,400	4,650	622,900	472,200	100.0
1	茨 城	2,700	7,060	190,600	177,600	37.6
2	長 野	677	8,010	54,200	44,800	9.5
3	福 島	590	3,080	18,200	5,830	1.2
4	栃 木	510	5,110	26,100	17,400	3.7
5	埼 玉	493	4,610	22,700	14,000	3.0
6	宮 城	481	1,920	9,240	3,400	0.7
7	兵 庫	476	4,530	21,600	14,900	3.2
8	愛 知	467	4,440	20,700	18,400	3.9
9	新 潟	405	2,020	8,180	2,860	0.6
10	群 馬	403	4,820	19,400	14,100	3.0

○ 冬レタス						
順位	全 国 ・ 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	7,870	2,380	187,000	172,800	100.0
1	茨 城	1,500	2,300	34,500	32,500	18.8
2	兵 庫	828	2,820	23,300	21,800	12.6
3	香 川	772	2,160	16,700	15,700	9.1
4	静 岡	702	2,480	17,400	16,600	9.6
5	福 岡	662	1,830	12,100	11,600	6.7
6	長 崎	662	3,610	23,900	21,500	12.4
7	熊 本	512	2,800	14,300	13,500	7.8
8	千 葉	339	1,900	6,440	5,810	3.4
9	愛 知	310	1,610	4,990	4,630	2.7
10	徳 島	302	1,910	5,770	5,340	3.1

## 6. 今後の気象予報

### 1ヶ月（10月24日～11月23日）予報に見る確率

	平均気温（1週目）10/24～30	平均気温（2週目）10/31～11/6	平均気温（3～4週目）11/7～20
北日本	低 70% 並 20% 高 10% 低い 見込み	低 50% 並 30% 高 20% 低い 見込み	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並 の見込み
東日本	低 20% 並 50% 高 30% 平年並 の見込み	低 30% 並 50% 高 20% 平年並み の見込み	低 20% 並 40% 高 40% ほぼ平年並 の見込み
西日本	低 20% 並 50% 高 30% 平年並 の見込み	低 20% 並 50% 高 30% 平年並 の見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
沖縄・奄美	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み

		平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
北日本	日本海側	低 50% 並 30% 高 20% 低い 見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 の見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
	太平洋側		少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並み の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
東日本	日本海側	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側		少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
西日本	日本海側	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側		少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
沖縄・奄美		低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	少 20% 並 30% 多 50% 多い 見込み	少 50% 並 30% 多 20% 少ない 見込み

注：「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較（以下同じ。）

出典：「全般1ヶ月予報解説資料」（平成27年10月22日発表 気象庁地球環境・海洋部）



◎3ヶ月（11月～1月）予報に見る確率

	平均気温 11月	平均気温 12月	平均気温 1月
北日本	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並みの見込み	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並みの見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並みの見込み
東日本	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み
西日本	低 20% 並 30% 高 50% 高い見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み
沖縄・奄美	低 20% 並 30% 高 50% 高い見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い見込み

		降水量 11月	降水量 12月	降水量 1月
北日本	日本海側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並みの見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並みの見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並みの見込み
	太平洋側	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並みの見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並みの見込み
東日本	日本海側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並みの見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並みの見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない見込み
	太平洋側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 20% 並 30% 多 50% 多い見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み
西日本	日本海側	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並みの見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並みの見込み
	太平洋側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 20% 並 30% 多 50% 多い見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み
沖縄・奄美		少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み

出典：「全般3ヶ月予報（11～1月）解説資料」（平成27年10月23日発表 気象庁地球環境・海洋部）